

事例14

< 事例概要 >

出血

- ① 70 歳代、両側下葉無気肺。脾頭部癌術後の大量出血後に肝腎不全となり、血液透析となった患者。
- ② 血液透析導入のため、左内頸静脈に血液浄化用カテーテルを留置予定。
- ③ BMI 28.5 kg/m²。血小板約5 万台/ μ ℓ、PT延長あり。抗血栓薬の使用は無。右内頸静脈に中心静脈カテーテル、右大腿動脈に脾動脈塞栓術時のシース留置中、左鼠径部血腫あり。
- ④ 左内頸静脈よりリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。ガイドワイヤーの挿入に抵抗はなかったが、カテーテルを20 cm挿入後に逆血を認めず、カテーテルを10 cm引いたところで逆血が確認できたが、押し戻すことは抵抗がありできなかった。X線で胸腔内迷入を確認、血管損傷が疑われた。直後にショック状態となり、左血胸部にドレーン挿入したところ大量出血あり、緊急開胸。術中、心停止となり、経皮的心肺補助装置を挿入し閉胸。翌日、出血持続のため再開胸し左内胸静脈を結紮したが、穿刺から2日後に死亡。
- ⑤ 死因は、ガイドワイヤーの迷入に伴う左内胸静脈損傷による出血（疑い）。死亡時画像診断（Ai）有、解剖無。